

TNBだより



令和7年3月号

3月、新しく出発するための区切りの季節になりました。本年度の学級経営、教育活動、おつかれさまでした。初めての担当や業務に悩まれた先生もおられるでしょう。どんな人でも迷いや悩みがあり、自分なりの解決を探しているものです。失敗も、過ぎてしまえば学びと経験の積み重ねの1つ。この1年間を振り返り、4月からの道行きに勇気と知恵を手にしていただきたいと思います。



見えないものを大事にした日々を振り返り

丹波市立吉見小学校長 内田順子

働き方の節目にあたり、おこがましい限りですが執筆させていただきました。

見えない音で見えない力を育てた中学校音楽科教諭25年間には、約5千人の生徒と授業で出会いました。取り組んだ楽曲は、合唱にしろ、吹奏楽にしろ、今も当時の演奏が私の記憶の中で再生されます。私は、音楽科で培う「感性」を単なる受動的な能力ではなく、音楽との関わりを通して自己の存在を築いていくことだと考えていたので、例えば合唱指導では、作曲家の意図を忠実に再現する演奏よりも、生徒たちの価値観で創り上げていく演奏を求めさせました。校内合唱コンクールの終盤にもなると、個々の表現が擦り合わされて一つにまとまっていく感動に触れた生徒たちが、何度も何度も歌いたがり、休み時間も授業をしてほしいと言ってきたり、担任が、演劇の時間にも合唱練習を続けて困っていると言ってきたりしたこともありました。歌い込むにつれ音が揃い、倍音の心地よさに感動する生徒が現れると、「音の本質」を求めるといった次なるステージに進んで行ったものでした。このような活動や感動のループが、どのような教育成果を生んだのか、計る術もありません。しかし、本当にその人のものになったものほど気づかれないものであり、教師の仕事はそういうものだと思います。

校長に就いた9年間も、本質を見極め、職員の考えを揃え、児童生徒の言動の背景を読み取り、未来を生み出すといった、音楽科指導と似た「見えないものを大事にする」学校経営だったと振り返ります。青垣中学校では義務教育を終えることの重み、黒井小学校では国語科を通した研究の成果、鴨庄小学校閉校までの児童・職員・家庭・地域との一体感、そして、安定と改革を求めた統合校吉見小学校での営み…。共に関わり、助けてくださった全ての方々に感謝いたします。校長職を退くにあたり、これまで先生方に伝え続けてきた私の考えを述べて、教育に携わる全ての方々へのエールにしたいと思います。

「変わる」と「変える」、「変化」こそ「成長」

丹波市立市島中学校長 吉川景敏

昭和63年4月の採用から37年間、昭和・平成・令和の時代を氷上郡・丹波市の地で勤務させていただきました。この間、多くの人との出会いと苦楽の経験、数えきれないほどの学びがあり、今の自分につながっていると実感しています。

ふり返れば、時代とともに多くのことが変わってきました。その変化を真摯に受け止めることはとても大切です。しかし、変わることがたくさんあっても、その時代や環境の中に生きる自分自身に「何のために」という目的意識と「自分は何をすべきか、何ができるか」という自分ごととしての変えようとする気がなかったなら、今の自分につながる出会いや経験、学びはもっと少なかったのではと思います。昭和・平成・令和に続く、この「予測困難な今と未来」を生きぬいていくため、「目的意識」と「自分ごと」をモットーに、時には、なかやまきんに君のように身体の都合を聞きながら、自らの「変化」を「成長」につなげていきたいと、今のところは考えています。

以前に校長をしていた丹波市立和田中学校の平成31年（令和元年）4月の始業式と入学式で、私は全校生徒に次のように話しました。「学年が変わる（入学する）ということは、ほっておいても、何もしなくても、多くのことが変わっていきます。また、日本という国レベルでも、来月の5月になると、元号が平成から令和に変わります。たくさん『変わる』ことがあっても、みなさん一人ひとりに『変える』気がないなら、それは、いつまでたっても変わらないと思います。あるいは、上辺や見栄えは変わったように見えても、実際には何も変わっていないと思いませんか。」

そして、この話の続きが生徒ウケした様子でしたので、以降の6年間、職場が変わっても話し続けています。

「英語には『変わる』と『変える』の両方の意味を持つ単語があります。それは“Change（チェンジ）”です。今後のみなさんの、『変わる』と『変える』の両方を兼ねそろえた、“Change（チェンジ）”を期待しています。」

本年度末で校長職を退かれる方から3名のメッセージを2月号と3月号で掲載しました。大変ご多用の中、寄稿していただきありがとうございました。永年教育活動にご尽力されましたことに感謝を申し上げ、今後とも、子ども達を育むために皆様のお力をお貸しいただきますようお願いいたします。



本年度の学校問題サポートチームは、校内研修や協議会に参加させていただいたり、「心のサポート授業」を保護者参観で担任の先生と協働したりして、先生方と直にお話をしながら学校問題の解決について考える機会が増えました。先生方が元気で、子ども達が元気な学校であることを願って、来年度も支援活動をしていきます。訪問等にご配慮いただきました皆様、ありがとうございました。